

窓辺

なかの
中野 ヤスコ

コロナ禍が
与えてくれた好機

藤枝市を拠点に展開する食専門の総合プロデュース事業は、業務のほとんどが身体計測や食事などで「人が集う事業」。新型コロナウイルスの感染拡大で世の中



中の多くの事業者と同様、大きな影響を受けました。

行政や教育機関、企業、契約チームなどから依頼を受けた主催事業はすべて中止。藤枝駅近くのホテル1階に構える飲食店も、ずっと先までスポーツ合宿の予約でいっぱいでしたが全て

キャンセル。コンサルティング事業以外の業務はほぼなくなり、昨夏は思い切った店を一時休業し、会社のビジョンをスタッフと共に見直す時間になりました。

最初に手を付けたのは、オンライン対応の体制整備。結果的に契約チームや栄養セミナーなどに対応する通常業務が効率化できました。さらにプロバスケットボールチームのベルテックス静岡とファンとのオンライン料理イベントを企画し、交流のあるJリーガーに依頼された選手同士のクッキング対決のライブ配信

にも挑戦しました。新しい挑戦を重ねていると次々とアイデアが湧き、コロナ前には思い付かなかったような依頼も舞い込みました。

そんななか、型破りなキャリアの私を、同居してずっと支えてくれた義母が7月に他界しました。最期の時期を告げられた時、入院したら面会できなくなるため、本人の希望で在宅での看病を選び、家族総出で取り組みました。出張業務が皆無になったタイミングだからこそできた決断でした。恩返しはほとんどできませんでしたが、ほんの少しだけ彼女の希望をかなえられました。この時だけは天が与えてくれた好機だったと感謝しました。

(公認スポーツ栄養士)